

令和5年度 京都府立洛東高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (最終段階)

令和6年3月21日

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)		
<p>めまぐるしく変化していく社会の中で、変化を前向きにとらえて主体的に行動し、夢と希望を持って自立的に未来を切り拓いていくための知識・技能及び、変化に対応する力を身に付ける。</p> <p>◎「洛東高校生」としての誇りを持ち、自らに人間的成長を図る生徒の育成 ◎自己の将来を展望し、目標達成に向け何事にも意欲的・探究的に取り組めるための支援の推進 ◎知識・技能に加えて学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力等を確実に育むために主体的・対話的で深い学びの推進 ◎様々な行事や体験活動、部活動を通してソーシャルスキルを身につけ、公共心や他者を思いやる心など、豊かな人間性を育む ◎ICT教育の充実と、校務のICT化等の教育情報化の推進 ◎地域とともにある学校として、コミュニティスクールの取り組みを充実させるとともに、将来の社会の担い手として地域社会に貢献できる力を育む</p>		<p>・スクールポリシーの策定に向け、「洛東高校のグランドデザイン」を明確にし、教科・分掌の指導が一体となる体制づくりとともに、効果的な広報活動を展開する。</p> <p>・新学習指導要領に基づいて、授業デザイン、観点別評価の両面から、さらなる研修を進めるとともに、評価の観点を明確にした評価計画を作成し、指導と評価の一体化を図る。</p> <p>・ICTの利活用について、一人一台端末の効果的な活用に向けて各分掌が連携し進めるとともに、教科を超えた教材の研究や研修を進め、ICT教育の推進を図る。</p> <p>・学習習慣の定着、希望進路の早期決定と実現、基本的な生活習慣(遅刻、身だしなみ、家庭学習・授業への取り組み姿勢等)について、教務部・進路指導部・生徒指導部が中心となって相互に関連付けを行い、一人ひとりに寄り添いながら、具体的でわかりやすい指導を学年部と連携して行う。</p> <p>・各学年の課題を明確にし、継続的・発展的な進路指導ができるよう、学年・教科と連携して具体的な仕掛けづくりを進めることで、自学自習の習慣を確立するとともに、自らの未来を具体的にデザインし、進路実現を図る体制を構築する。</p> <p>・持続可能な社会の構築の視点から環境整備・美化活動を推進するための取組を、美化委員会と一緒に進める。</p> <p>・スクールカウンセラーやSSW、外部の諸機関と連携し、様々な課題を抱える生徒への対応を進める。</p>		<p>『 寄り添い 育て 鍛え 送り出す 』</p> <p>進路指導 『入学当初から・定期的継続的に・視野を広げる情報提供・内定後指導』</p> <p>学習指導 『授業を大切に・公開授業充実・個に応じた・観点別評価・希望進路に照らして』</p> <p>学校行事 『生徒主体・多様な人となつながら・自己肯定感・生きる力を育む』</p> <p>特別支援 『情報共有・家庭、関係機関との連携・個に応じた・日常観察』</p> <p>ICT活用 『校内研修の充実・教材開発と共有・他校連携・チャレンジ』</p> <p>生徒指導 『褒める・生徒の自主性や主体性を引き出す・温度差のない指導』</p> <p>部活動 『積極的な部活動参加・活動を通じた人間力の育成・学校の中心的存在』</p> <p>広報活動 『全校体制で・HPの充実・SNSの活用・在校生や卒業生の活躍を紹介・出身中学校へのアプローチ』</p>		
評価領域	重点目標	具体的方策		成果と課題		
		中間	最終	総合		
国語科	言語活動を通して、的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。また、言語感覚を磨き、伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。	生徒自身が主体的に思考・表現することができるような授業づくりに努める。その際、主体的に取り組めるようなICT等を用い、必要とされる資質・能力を伸ばす工夫を行う。	B	B	B	○授業でタブレット端末を使用する頻度は上がった。授業支援アプリによって、課題の配布や提出、音読の録音等、個人の学習状況を把握しやすくなった。また、一部ではデジタル採点を取り入れ、業務時間の短縮を図っている。 ○次年度からタブレット端末の自由度が大きく上がるため、授業規律の徹底や基礎的な学力の向上に向けて、さらに研鑽していく。
地歴・公民科	授業での基礎基本の定着を大切に、観点別評価をもとに、個に応じた指導を行う。授業の内容と社会事象とを関連づけ、生徒に物事の見方・考え方を身に付けさせ、主体的に学習に取り組ませる。また、未来の有権者として、一人の主権者として現代社会での諸活動に参画する態度を育む。	地理・歴史・公民分野の授業内容を適切に理解させるとともに、時事問題や生徒にとって身近な事柄も扱い、生徒が自分のこととして社会の問題を考えられる授業を行う。また、学習の仕方の具体例を示し、個々の学習への意欲を高める。適宜声かけを行い、生徒の状態を把握し、担任や分掌とも連携して指導を行っていく。補充や課題、日々の声かけにも応じない成績不振の生徒への指導としては、目が行き届く環境で課題等を取り組ませる等、個々の課題に応じた指導を行う。	C	B	B	○文献や新聞記事など多様な資料を視聴覚教材、ICTなどを活用することにより、時事問題や生徒にとって身近な事柄を扱うことで、社会の問題を自分事として捉えさせ、他者と意見交換を行ったり意見を文で表現させることができた。学習の仕方はオリエンテーションで示し、勉強の仕方の助言を行った。課題のある生徒に関しては、補充や課題に取り組むよう根気強く声をかけ、取組の場を設定するなどした。 ○2年生は新カリキュラムとなり、地理総合や世界史探究・日本史探究といった新たな科目が増え、1年生の公共と歴史総合とともに、グループ学習や発表等、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう工夫した授業展開を実践することを目指して取り組んだが、いくつかの面でまだまだ改善が必要である。 ○来年度は、3年生で地理探究および世界史探究・日本史探究の後半が入ってくるため、教科担当者間で十分に連携をとりながら実践していく必要がある。さらに、授業支援アプリをはじめとするICTを活用した授業についても、今後も引き続き積極的に行い、実践例を積み重ねながら、より生徒にとって望ましい使い方を試行錯誤していく必要がある。
数学科	授業での基礎基本の定着を大切に、個に応じた指導を行うとともに、観点別評価と指導を一体化する。また、学習指導要領に則したICTを活用した授業展開を研究する。	共通の課題を設定し、授業において基礎基本の定着と学習習慣の確立を図る。あわせて、教科会議にて授業内容や考査内容の検討を行う中で、観点別評価の実施内容について考察する。	B	B	B	○同じ科目の生徒に対しては、共通のテストを実施し、課題の共有化に努めることができた。教科会議などにおいて、同じ科目の担当者間で十分に検討を重ね、指導と評価が一体化できるように心がけ、とくに結果がよくなかった考査については、授業改善につながるような話題作りをした。また、わずかではあるが試験範囲を終えた試験直前の授業を活用し、生徒の意見が交流できるような授業を展開することができた。ICTを活用することで、教材の配布や図・グラフをより鮮明に生徒に伝えることができた。
理科	社会を担う人材として、基礎学力の定着と向上を図り、主体的に考え学ぶ態度や課題解決能力を育成する。	基礎学力の定着と向上を図るために、小テストや課題、レポート等を効果的に実施し、学習状況の把握や授業改善に活かす。また、個々の到達度や興味・関心、進路目標に合わせた課題設定を行い、生徒が学ぶ機会の確保や学習意欲の向上に繋げる。	C	C	B	○小テストや課題、レポート等をこまめに実施し、生徒の基礎学力の定着や教員の授業改善に活かすことはできたが、思考力や応用力が求められる学習内容に対して、与える知識の精選や、スモールステップでの段階的、継続的な指導が求められる。 ○到達度や進路目標等に合わせた課題設定については個別に行い、一定、学ぶ機会の確保や学習意欲の向上に繋げることができた。 ○学びを深めたり、生徒の興味・関心を引くための実験・実習やICT活用については、実施・活用可能な場面を設定して行っているが、生徒の興味・関心の喚起にとどまり、理科的思考や主体的に考えて学ぶ態度、課題解決能力の育成には至っていない。考える力を養うための段階的な指導や訓練が必要である。
保健体育科	心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力の育成を目指す。また、自らの健康や環境を適切に管理し、改善していく能力の育成を目指す。 ・主体的・合理的・計画的で深い学びを目指した授業を行う。	・運動やスポーツに対して、「する・みる・支える・知る」といった多様な関わり方があることを理解させ、多くの運動・スポーツの中から自分に適した種目を選択し、生涯を通して主体的に運動・スポーツに親しむ基盤を育てる。 ・ICT機器を活用し、自己や他者の運動動作等を確認することにより、自身または他者の課題を見つけ、改善・修正ができる一助となるようにする。 ・グループ活動を通して、コミュニケーションを図り、自己の役割を責任をもってやり通す力を見つけさせる。また、これらの活動を通して、協働することの大切さを学ばせる。	B	B	B	○スポーツにより親しめるよう、種目選択の方法を昨年度より変更を加え、より興味を持って、意欲的に取り組むよう工夫を行った。 ○「振り返り」の機会を増やし、自己の課題を発見し、次時につなげ、主体的に取り組む一助とした。 ○ICT機器の活用をしている種目が増えてきている。実技においては特に動画撮影を行い自己の課題を発見させたり、課題提出を行わせたりしている。特に器械運動・ダンスでは効果的に使用できた。小グループでできることで互いに教えあったり、主体的に取り組む姿が見られた。 ○課題解決学習については夏季休業中の課題として取り組ませ、今年度はICT機器を活用したプレゼンテーションを必須としたがほとんどの生徒は取り組めた。コミュニケーション能力を育てていくことが今後の課題である。
		・ヘルスプロモーションの考え方を踏まえて、個人の適切な意思決定や行動選択が生涯の健康づくりに関わることを意識させ、生徒が実生活に生かせるようにする。 ・課題学習を通して、調査・研究・発表させる。発表の際には、生徒のコミュニケーション能力やICT機器を活用したプレゼンテーション能力を育てられるように指導する。	B	B		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
			中間	最終	総合	
芸術科	感受できる心と表現する力を育てることを目指し、指導方法の工夫を行う。	本校生徒の実態に応じた教材の開拓、研究を行う。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術科各科目で、本校の生徒の興味や関心に応じたより効果の高い授業実践を考え実践を進めた。</li> <li>・夏季休業中の府立高等学校教育課程研究協議会に参加し、協議会で得た情報や他校の実践事例を共有することができた。これによって観点別学習状況の評価の実践へのヒントを得ることができた。</li> <li>・美術科では、タブレット端末を活用し、途中段階の指導と評価に役立てた。また、班活動で対話的な学びや校内展示によって、学習意欲の向上を目指した。さらに、各課題で何度も補習を設定し、学習の定着やよりよい表現をめざして主体的に粘り強く取り組む姿勢を高めた。</li> </ul>
		生徒の感性をもとにした実技活動を進め、内容を深めるとともに、観点別評価の研究と実践を行う。	B	B		
外国語科 英語	あらゆる生徒に対して、基礎・基本を大切にしながら4技能をバランスよく伸ばすことを目指し、「覚える」よりも「考える」「理解する」ことを意識して教材・授業法・評価方法を改善する。その際タブレット端末の有効的な活用方法を考える。	1年生については、学び直し教材を通して基礎・基本を身につけさせる。1、2年生については、タブレット端末を活用し、多種多様な学びの機会を増やす。すべての学年で、4技能をバランスよく伸ばすことを目指すとともに、主体的な学びに繋がるよう、パフォーマンス(音読・スピーチ・自由英作文)を取り入れた授業や評価に取り組む。	C	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生では中学時に英語を苦手としていた生徒が多く、英文法については基礎的なことから学び直す必要があり、独自教材を用いたり、一年を通して不規則活用動詞の小テストを行ったりすることで、ある程度は基礎力が定着した。</li> <li>○1、2年生のタブレット端末の活用については、担当者間で授業方法等を相談しながら有効に活用することができたが、まだ不十分な面もあるため、端末を積極的に活用する必要がある。</li> <li>ALTとのチーム・ティーチング時にパフォーマンステストを実施することで、英語でのコミュニケーション力が強化できた。</li> <li>○進学補習や基礎補充、小テストについては、各学年とも充実した指導を行った。小テストや課題の提出を随時課すなどして家庭学習の習慣化を図ったが、不十分な生徒もおり、主体的に学習させるための仕掛けが必要である。</li> <li>○英語検定を校内で3回実施し、2次試験の面接指導も実施できた。</li> </ul>
		英語を苦手とする生徒に対しては、つまづきの原因を早めに明らかにし、適切な働きかけを行いながら単位認定を目指す。また生徒の関心や意欲を高める様々な工夫をしながら、個々の進路実現につながる授業や補習を実施する。特にプログレスコースの生徒には、英検を積極的に受験するよう促す。また家庭学習の充実と習慣化を図るための課題(宿題、小テストの実施)を計画的に提供する。	B	B		
家庭科	実践的・体験的な学習活動を通して、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。授業規律を確保し、授業や学びの環境づくりを大切に。日々の授業を主体的に学ぶ姿勢を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の生活を見直し、授業で学んだことを生活に反映できるような学習課題に取り組ませ、知識と技術の向上を図る。</li> <li>・グループ学習や発表会、講演会において、さまざまな人の意見を聴き、多様な価値観にふれ、自分らしい生き方について考えさせる。</li> <li>・調理・被服製作・保育などの実習における教材や指導方法を工夫し、実践力を身につけさせる。</li> <li>・子育て学習プログラムを利用し、「ライフスキル」の探究活動における教材研究をする。</li> <li>・保育技術検定4級合格率100%を目指す。</li> <li>・ICT活用教材の研究を進める。</li> </ul>	C	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒一人一人が自身の生活を振り返り、実践につなげられるようなワークシートや教材を工夫して作成し、授業を行うことができた。</li> <li>○新型コロナウイルスによる授業内容の制限がほとんど無くなり、コロナ禍前とほぼ同じ状態まで戻り、多くの体験的授業を実施できた。また、体育祭での安永保育園園児との合同競技など新たな取り組みも増えたため、次年度以降は今年度の取り組みを踏まえてより良い内容になるよう、年度内にしっかりとフィードバックを行う。</li> <li>○「ライフスキル」の授業において探究活動に取り組む、学習が主体的に取り組めるような教材(ワークシート)、内容(実験、発表)等、工夫できた。</li> <li>○保育技術検定はカリキュラムの変更に伴い2年生と3年生両方で実施したが、3年生の合格率85%に対し2年生は合格率70%にとどまり、目標の100%には届かず例年よりも大きく下回る結果であった。指導方法の検討が必要である。</li> <li>○ICTを活用した授業に取り組めたが、生徒によるタブレットの活用方法については、主に紙のプリントとの併用やタブレット端末忘れの生徒の対応等で課題が多く見つかった。次年度は3年生の実習授業でもタブレット端末の活用が可能であるため、今年度の課題を踏まえてよりよい活用方法を検討していきたい。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業プリントやレポートを確実に取り組みせ、ロイノートに提出させて評価する。</li> <li>・授業の始まりと終わりの挨拶・授業中の態度・身だしなみ等の指導を徹底し、落ち着いた学習環境づくりに努める。</li> <li>・実習時の服装、身だしなみ(スマートフォンのルール)、衛生安全面についての授業規律を確認させ、周知徹底する。</li> <li>・生徒自身が考えて学習に取り組める内容のワークシートを作成するとともに、意欲的な学習姿勢を持続させられるよう指導方法を工夫する。</li> </ul>	C	C		
情報科	授業規律を確保するとともに、「自ら学ぶ姿勢」を養うため、実践的・体験的な学習活動を重視し、発表や相互評価を通して、互いに高めあい、共生社会の中で生き抜く力を育成する。	授業規律の確保に努める。特に、授業開始時終了時の挨拶、身だしなみのチェック、指示を聞く姿勢や自習に取り組む姿勢など、落ち着いて学習できる環境が生徒自身の自覚により生まれるように指導する。	C	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ほとんどのクラスで授業前の身だしなみチェックを実施することができ、最低限、コンピュータ教室にて授業を受けるときには正しい服装で授業に臨ませるように指導できた。指示を聞く姿勢については、後半にかけて、自律した姿が見られるようになった。</li> <li>○情報 I については、教科書の内容は全て扱うことができた。相互評価の機会も設けることができた。来年度は、実習内容の充実を考えていきたい。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領に準じた授業や評価方法を研究し、実際に授業を実施しながら更なる検討・改善を進める。</li> <li>・学んだ技術を活用できる作品制作と発表、相互評価と改善の機会を設ける。</li> </ul>	C	B		

評価の基準 A:十分達成できている。(目標以上の成果が得られている。) B:ほぼ達成できている。(ほぼ目標通りの成果が得られている。) C:達成できているとはいえない。(成果はあったが、目標は達成できていない。) D:ほとんど達成できていない。(ほとんど成果が得られていない。)

学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おおむね達成できており、適切な課題設定と運営がなされている。</li> <li>・目標設定では、評価の支えとなる根拠が示せるよう、数値目標も取り入れながら設定するとよい。</li> <li>・地域は洛東高校を応援している。自然環境、地の利に恵まれており、地域の使える人材を活用し、更に教育活動を進めてほしい。</li> <li>・夢や楽しさがある高校生活を望んでいる。両立を目指すにはどうすればよいかという視点でも、学校改革を進めてほしい。</li> <li>・洛東高校は頑張っている。イメージもよい。キャリア教育につながる授業も多く展開されている。これからも積極的に協力していきたい。</li> </ul>
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少しずつであるが成果が見られる進路指導について、さらなる充実を図りたい。</li> <li>・次年度は3学年1人1台端末が揃うため、その活用について、さらなる研修と全教員が実際に教育活動で利用することを推進する。</li> <li>・スクールポリシーに則った学校のグランドデザインの明確化を図り、各分掌が連携した学校運営を図る。</li> <li>・学習習慣の定着や基本的生活習慣(遅刻や身だしなみ等)の指導を各分掌が連携して行い、自学自習の習慣を確立するとともに、自らの未来を具体的にデザインし、進路実現を図る体制を強化する。</li> <li>・効果的な広報活動を行い、選ばれる学校づくりを進める。</li> <li>・「働き方改革」を具体的に進めるため、各分掌と協力しながら業務改善を進める。〚〓</li> </ul>